

Windows 10 Mobile 評価ガイド

## 評価ガイド

---

日本マイクロソフト株式会社

発行日 : 2016 年 11 月

このドキュメントに記載されている情報は、このドキュメントの発行時点におけるマイクロソフトの見解を反映したものです。変化する市場状況に対応する必要があるため、このドキュメントは、記載された内容の実現に関するマイクロソフトの確約とはみなされないものとします。また、発行以降に発表される情報の正確性に関して、マイクロソフトはいかなる保証もいたしません。

この評価ガイドは情報提供のみを目的としており、明示、黙示、または法律上の保証に関わらず、これらの情報についてマイクロソフトはいかなる責任も負わないものとします。

お客様ご自身の責任において、適用されるすべての著作権関連法規に従ったご使用を願います。このドキュメントのいかなる部分も、米国 **Microsoft Corporation** の書面による許諾を受けることなく、その目的を問わず、どのような形態であっても、複製または譲渡することは禁じられています。ここでいう形態とは、複写や記録など、電子的な、または物理的なすべての手段を含みます。

ただしこれは、著作権法上のお客様の権利を制限するものではありません。マイクロソフトは、このドキュメントに記載されている内容に関し、特許、特許申請、商標、著作権、またはその他の無体財産権を有する場合があります。別途マイクロソフトのライセンス契約上に明示の規定のない限り、このドキュメントはこれらの特許、商標、著作権、またはその他の知的財産に関する権利をお客様に許諾するものではありません。

© 2016 Microsoft Corporation. All rights reserved.

Microsoft ®、Windows ®、Microsoft Corporate Logo ®、Windows Server ®、Windows Mobile ™、Azure ®、Active Directory ®、Microsoft Inutne ®、Continuum ™、Office 365 ®、Excel ®、PowerPoint ®、OneNote ®、Outlook ® は米国 **Microsoft Corporation** の米国またはその他の国における登録商標または商標です。

このドキュメントに記載されている会社名、製品名には、各社の商標のものもあります。

## ■ 企画/執筆/監修

執筆：富士ソフト 株式会社

安野 友貴

中野 進

黒澤 健二

企画/監修/改訂：日本マイクロソフト株式会社

## ■ 改訂履歴

バージョン	年月日	改訂者	内容
1.0	2016年10月21日	富士ソフト 株式会社	初版を作成

# Windows 10 Mobile 導入手順

2016 年 11 月版

## 目次

1. はじめに .....	6
2. 概要 .....	7
2.1. モバイル デバイス向け Windows 10 .....	7
2.1.1. Windows as a Service .....	7
2.1.2. Enterprise エディションの機能 .....	8
2.1.3. Enterprise エディションの利用方法 .....	8
2.2. ビジネス向け Windows ストア .....	9
2.2.1. ビジネス向け Windows ストア .....	9
2.2.2. Universal Windows Platform アプリ .....	9
2.3. アカウント .....	9
2.3.1. Azure Active Directory アカウント .....	10
2.3.2. Microsoft アカウント .....	10
2.4. デバイス管理 .....	10
2.5. 初期構成 .....	12
2.5.1. プロビジョニング .....	12
3. 準備編 .....	13
3.1. 管理インフラ準備フロー .....	13
3.2. Azure AD .....	14
3.2.1. Azure AD と Microsoft Intune の自動連携 .....	14
3.3. ビジネス向け Windows ストア .....	16
3.3.1. サインアップ .....	16
3.3.2. 管理ツールの設定 .....	17
3.3.3. アプリの追加 .....	18
3.4.1. モバイル デバイス管理機能の設定 .....	19
3.4.3. カスタム構成の設定 .....	23
3.4.4. ビジネス向け Windows ストアとの同期設定 .....	27
3.4.5. アプリの配布設定 .....	29
3.5. プロビジョニング パッケージ .....	30
3.5.1. プロジェクトの作成 .....	30
3.5.2. プロビジョニング項目の設定 .....	32
3.5.3. パッケージの出力 .....	34
4. 展開編 .....	36
4.1. Windows 10 Mobile の組織内展開フロー .....	36
4.2. 管理者 (デバイス準備) .....	37
4.2.1. プロビジョニング パッケージの適用 .....	37

## Windows 10 Mobile 評価ガイド

4.3. ユーザー .....	39
4.3.1. ユーザーの初期設定 .....	39
4.3.2. デバイスの設定状態の確認 .....	43
5. 運用編 .....	46
5.1. Azure AD .....	46
5.1.1. 登録の確認 .....	46
5.2. Microsoft Intune .....	48
5.2.1. 登録の確認 .....	48
5.2.2. アップデートの確認 .....	49
5.3. ビジネス向け Windows ストア .....	50
5.3.1. ライセンスの確認 .....	50
6. おわりに .....	52
7. 用語集 .....	52

## 1. はじめに

---

Windows 10 Mobile は、マイクロソフトが提供する Windows 10 を搭載した新しいモバイルデバイスです。Windows 10 Mobile は、Windows 10 PC およびタブレットなど、Windows 10 デバイスで一貫したエクスペリエンスを提供します。例えば、Windows 10 Mobile では、普段使っている Microsoft Office のモバイル版である Office Mobile を利用することができ、Office 365 とのスムーズな連携ができます。これにより、Windows 10 PC で作業中だったデータを、移動中に Windows 10 Mobile で作業するといった使用が可能となります。このように Windows 10 Mobile ではモバイル デバイスの特徴である「場所を選ばない利用形態」を想定しているため、セキュリティ機能や管理機能の強化が行われています。

Windows 10 Mobile には、スタートアッププロセスや資格情報の改ざんを回避するための UEFI セキュア ブートや Trusted Platform Module (TPM) といった、ハードウェアベースの保護機能が含まれています。また、標準搭載された Device Guard により、プラットフォームやアプリに対しても同等のレベルで保護されています。Device Guard は、署名済みの信頼されたアプリのみ実行を許可し、危険性のあるアプリをブロックする機能です。加えて、組織のデータを保護するセキュリティ機能の一つに、Windows Information Protection (WIP) があります。WIP は、組織と個人のデータを分離し、組織情報の漏洩を防ぐことができます。さらに、Azure Information Protection でデータを暗号化することで、よりセキュリティを強化することができます。

セキュリティ機能の設定、適用は MDM ソリューションを活用することで一元管理することができます。Windows 10 Mobile デバイスの管理は、Microsoft Intune をはじめとした OMA-DM 形式の MDM ソリューションに対応しています。これらの MDM ソリューションを活用することで、容易なデバイス管理が可能になり、更なる業務の効率化を図ることができます。そのため、組織におけるデバイス管理には MDM ソリューションを活用することを推奨します。

前述の通り Windows 10 Mobile は、一貫したエクスペリエンス、セキュリティ機能、モバイル デバイス管理といった組織での利用に適した特徴を有しています。また、Windows 10 Mobile の開発・販売を行うメーカーも 10 社以上と増えていることから、今後の普及が予想されます。

本書は、Windows 10 Mobile のデバイスを組織に導入するための手順を紹介する評価ガイドです。現在すでに Office 365 と Microsoft Intune を利用している組織を対象に、Windows 10 Mobile デバイスを組織内で配布して利用できるよう導入手順をまとめています。

## 2. 概要

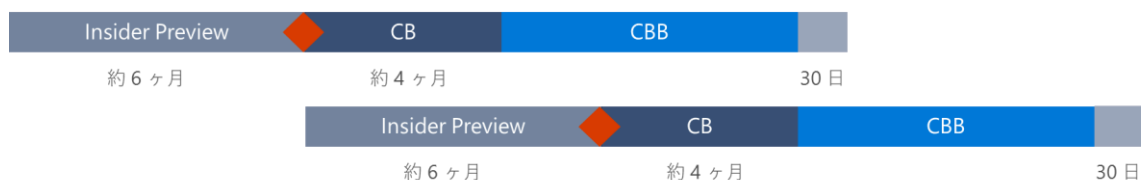
Windows 10 Mobile は組織でビジネスユーザーが利用するためのエディションや各種管理機能が用意されています。ここでは代表的な機能を紹介します。

### 2.1. モバイル デバイス向け Windows 10

モバイル デバイス向けの Windows 10 として、Windows 10 Mobile がマイクロソフトより提供されています。Windows 10 Mobile は、小型モバイル デバイスに最適化された設計であり、タッチ操作に最適化された Word、Excel、PowerPoint、OneNote、Outlook メール、Outlook カレンダーなどの Office アプリの利用ができます。また、ドッキングステーションやワイヤレス ディスプレイ アダプターを用いて外部モニターや入力デバイスと接続することにより、モバイル デバイスを PC のように扱うことができる Continuum を利用することも可能です。Windows 10 Mobile には、Windows 10 Mobile と、組織向けの管理機能を強化した Windows 10 Mobile Enterprise の2つのエディションが存在します。

#### 2.1.1. Windows as a Service

Windows 10 には、Windows as a Service という概念のもと、Insider Preview Branch、Current Branch (CB)、Current Branch For Business (CBB) の3つのサービシングモデルがあります。マイクロソフトでは Windows 10 Mobile も PC 向けの Windows 10 同様に継続的な開発を行っています。Insider Preview Branch では、開発中の Windows 10 Mobile の Preview 版をいち早く入手し新機能を検証いただけます。Preview を通じて開発された新機能を含む機能更新プログラムが年 2 回程度、CB に提供されます。CB は、Windows 10 Mobile の既定のサービシングモデルです。CB では機能更新プログラム提供後すぐにデバイスへの更新が実施されます。CBB には、CB への機能更新プログラムが提供されてから、約 4 ヶ月後に機能更新プログラムが提供されます。CBB に提供される更新プログラムは、CB に提供された機能更新プログラムに、CBB 提供開始までの品質更新プログラムが適用されたものです。品質更新プログラムは月例でリリースされる、セキュリティ更新や機能更新を含んだ更新プログラムです。



組織ユーザー向けの Enterprise エディションでは、CBB を設定することが可能です。CBB は、新たに機能更新プログラムが公開されてから 4 か月適用を遅らせる事ができるので、その間に組織内での機能検証や既存システムへの影響などを確認することができます。また、CBB に設定された Windows 10 Mobile は品質更新プログラムならびに、機能更新プログラムの適用開始を最

大 30 日間遅らせることも可能です。組織内に展開された Windows 10 Mobile をグループ化し、グループ単位で更新プログラムの適用時期をずらすことで更新プログラム配信の集中を避けることができます。

### 2.1.2. Enterprise エディションの機能

組織向けの Enterprise エディションで利用可能な機能には、以下があります。

#### 1 CBB への対応

Windows 10 Mobile Enterprise は、CBB のサービシングモデルを利用することができます。CBB を利用し更新プログラムの適用を延期させることで、月例の品質更新プログラムおよび、機能更新プログラムの適用時期を調整することが可能になります。延期の設定は、MDM または、プロビジョニングで行うことができます。

#### 2 アプリのサイドローディング

アプリのサイドローディングとは、Windows ストアを介さずに組織で開発した基幹業務 (LOB) アプリなどを展開する仕組みです。アプリのサイドローディングを利用することにより、Windows ストアへの公開を実施せずにアプリをインストールすることが可能となります。Windows 10 Mobile ではアプリのサイドローディング数が 20 個に制限されていますが、Windows 10 Mobile Enterprise では、アプリのサイドローディング数に制限はありません。

#### 3 テレメトリ

マイクロソフトでは、Windows 10 Mobile 搭載デバイスの動作状況などの情報をテレメトリ情報として収集し、継続的な開発に役立てています。Windows 10 Mobile Enterprise では、マイクロソフトへ送信している情報の制限をする設定を実施することが可能です。テレメトリの設定は MDM または、プロビジョニングで行うことができます。

### 2.1.3. Enterprise エディションの利用方法

Windows 10 Mobile Enterprise を利用するためには、ボリュームライセンスでのライセンス購入が必要です。Windows 10 Mobile Enterprise のライセンスをデバイス単位で購入する場合には、オープン ライセンス、Select、MPSA のいずれかのプログラムでライセンスを購入する必要があります。Windows 10 Enterprise E3 / E5 のユーザー単位のライセンスには、Windows 10 Mobile Enterprise を利用する権利が含まれていますので、ライセンスの特典として Enterprise エディションを利用することが可能です。これらのライセンスは、マイクロソフト パートナーを通じて購入する必要があります。



## 2.2. ビジネス向け Windows ストア

Windows ストアでは、コンシューマユーザー向けおよび、ビジネスユーザー向けの Universal Windows Platform アプリ (UWP アプリ) の販売・配布・購入をすることができます。また、Windows ストアで利用可能なアプリの指定や、ストアへアクセスするアカウントの管理をしたい組織向けには、ビジネス向け Windows ストアが用意されています。

### 2.2.1. ビジネス向け Windows ストア

組織向けのプライベートストアとして、ビジネス向け Windows ストアが提供されています。ビジネス向け Windows ストアは、クラウド上に展開された組織向けのアカウント管理基盤である Azure Active Directory と Windows ストアを連携して構成されているため、簡単に組織専用のプライベートストアを展開することが可能です。アプリの一括購入や、ライセンスの割り当て、回収等のライセンス管理が可能です。クライアントは Windows 10 Mobile にプレインストールされた“ストア”アプリに組織のアカウントでログインすることで利用可能なため、別途アプリの展開なども必要としません。



### 2.2.2. Universal Windows Platform アプリ

UWP アプリは、Windows 10 がインストールされているデバイスであれば共通して利用できるアプリです。アプリがサンドボックス内で実行されることや、提供される API がセキュアなものであるなど、プラットフォームレベルでセキュリティに配慮されています。さらに、セキュリティを侵害するようなアプリの作成を難しくするだけでなく、アプリの改ざんを行うような攻撃に対しても強固です。UWP アプリをデバイスにインストールするには、原則として Windows ストア経由でダウンロードする必要があります。Windows ストアでは、アプリの登録時にマイクロソフトによる審査が行われるため、安全にアプリをダウンロードすることが可能です。

## 2.3. アカウント

Windows 10 Mobile ではデバイスにアカウントを登録し利用します。アカウントの登録を実施することで、クラウドから提供される各種サービスとの連携が可能となり、プレインストールのアプリの利用をスムーズに行うことができます。デバイスに設定できるアカウントは Azure

Active Directory (Azure AD) アカウントと Microsoft アカウントの 2 種類があります。また、最初に登録したアカウントがプライマリアカウントとなり、デバイス管理などのアカウントとして使われます。組織で利用する Windows 10 Mobile のプライマリアカウントは、Azure AD アカウントが推奨されます。

### 2.3.1. Azure Active Directory アカウント

Azure AD アカウントは、職場または学校のアカウントと記されるように、組織の管理者がユーザーを追加することによって発行されます。ユーザーは、Azure AD アカウントを用いることで、Office 365 やビジネス向けストアといったクラウド サービスにシングルサインオン (SSO) でアクセスすることができます。デバイスに Azure AD アカウントをプライマリアカウントとして設定すると、Azure AD にそのデバイスを自動登録することができます。また、Microsoft Intune でのデバイス管理を連動させて管理を自動で開始することも可能です。既に Office 365 をご利用中の組織では、Office 365 のユーザーアカウントが、Azure AD アカウントになっていますので、その環境をそのままご利用いただけます。

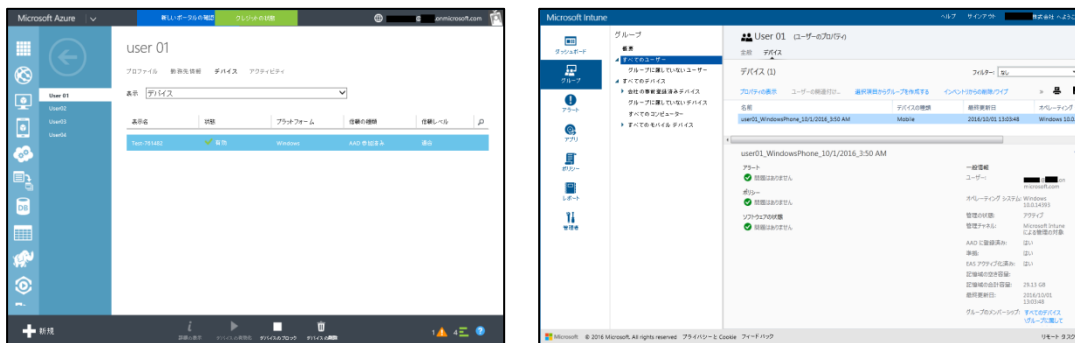
### 2.3.2. Microsoft アカウント

Microsoft アカウントは、電子メールアドレスとパスワードを使用して、マイクロソフトが提供するオンラインサービスや Windows 10 へサインインするためのアカウントです。Microsoft アカウントは、コンシューマー向けのサービスです。Microsoft アカウントでサインインすることによって、Windows ストアから任意のアプリをダウンロードができます。また、OneDrive の同期機能により、Windows 10 PC から Windows 10 Mobile から、同一のファイルを編集することが可能です。一方、組織での利用の場合は、ビジネス向け Windows ストアや Azure AD ベースの同期機能、Office 365 と連動した利用が可能ですので、Microsoft アカウントは必須ではありません。

## 2.4. デバイス管理

Windows 10 Mobile デバイスの管理には、Open Mobile Alliance - Device Management (OMA-DM) のプロトコルで実施されます。OMA-DM に対応した Mobile Device Management (MDM) 製品は各種ありますがマイクロソフトからは、Microsoft Intune での Windows 10 Mobile 管理が提供されています。Microsoft Intune ではデバイスとユーザーを紐づけて管理し、インベントリ情報の収集の他、組織のポリシーの提供、アプリの配布/管理、リモートワイプなどのセキュリティに関連の機能などが提供されています。Microsoft Intune のユーザーアカウントは、Office 365 と同様に Azure AD アカウントを用いるので、Office 365 をすでに利用している場合は同じアカウントで Microsoft Intune を利用できます。

## Windows 10 Mobile 評価ガイド



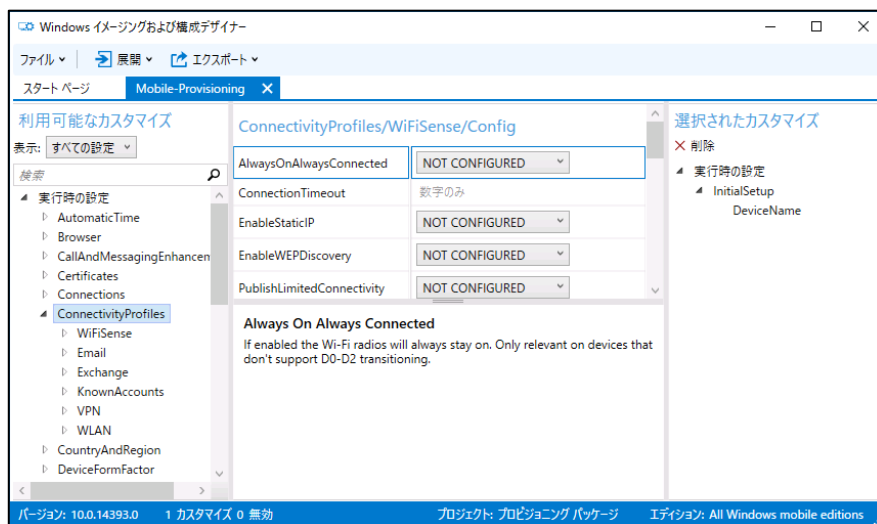
Microsoft Intune を使ってデバイスに各種ポリシーを配布する場合、一般的な設定にはテンプレートが準備されています。一方で Windows 10 Mobile Enterprise 向けの設定項目など一部の詳細な設定項目にはテンプレートが準備されていません。その代替として、OMA-DM で規定された個々の設定項目である OMA-URI をカスタム構成として直接設定する方法を用意しています。こちらを用いることで、詳細な設定項目だけでなく新しく追加された機能への対応も素早く実施することができます。

## 2.5. 初期構成

モバイル デバイスを効率的に初期構成する方法として、プロビジョニングがあります。プロビジョニングでは、あらかじめ設定した構成情報が含まれるプロビジョニング パッケージを作成し、それを適用することでデバイスの初期構成の負荷軽減を実現します。但し、プロビジョニング パッケージを利用してユーザー配布前に実施できる設定には限りがあります。ユーザーへのデバイス配布を実施し、ユーザーによる初期設定が終わった後にデバイス管理の仕組みを使って構成を実施する部分を含めて、初期構成を検討する必要があります。

### 2.5.1. プロビジョニング

Windows 10 Mobile では、プロビジョニング パッケージを用いることにより、デバイスを効率的に構成することが可能です。プロビジョニング パッケージは、マイクロソフトの提供するイメージングおよび構成デザイナー (Windows ICD) を用いることで容易に作成することができます。Windows ICD は、Windows 10 アセスメント & デプロイメント キット (Windows ADK) に含まれるツールとして提供されています。作成したプロビジョニング パッケージは、デバイスを初回起動した際に表示される Out-Of-Box Experience (OOBE) 画面で適用できます。また、利用開始後に設定画面から追加することも可能です。

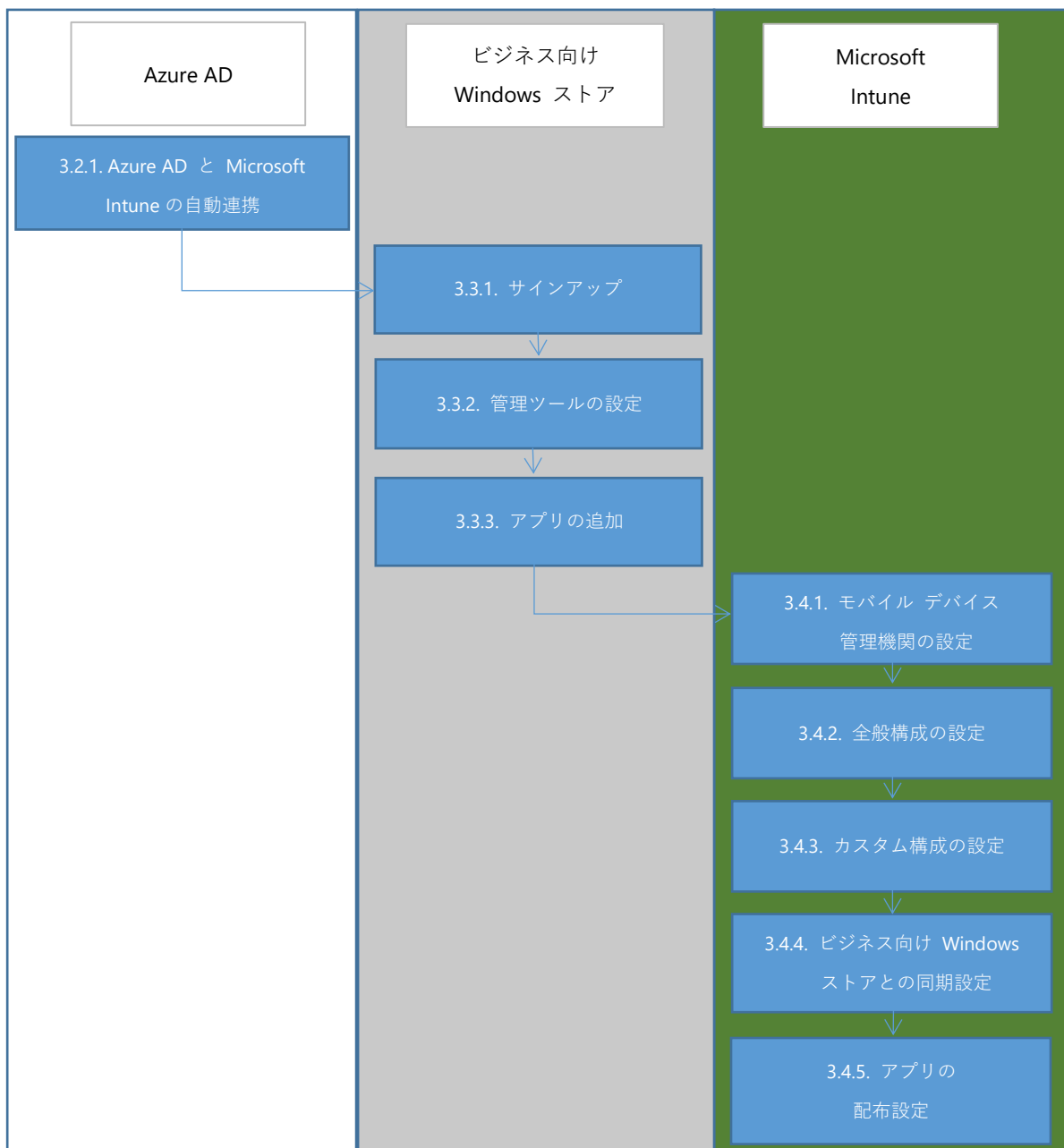


### 3. 準備編

Windows 10 Mobile を組織内で利用するには、管理を実施するインフラの準備、ユーザーへの展開、実際の運用を行っていく必要があります。それぞれの流れを代表的な環境、一般的な設定を想定して解説します。

#### 3.1. 管理インフラ準備フロー

ここでは、既に Office 365 の利用準備が整っており、Microsoft Intune が開設済みであることを前提として、Windows 10 Mobile を組織利用する際の、管理インフラの準備フローを下図に示します。管理を実施するユーザーは、Office 365 (Azure AD) の管理者権限を持つユーザーです。



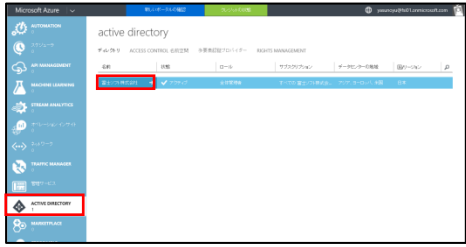



## 3.2. Azure AD


ここでは、Azure AD と Microsoft Intune を自動連携させるための設定手順について説明します。


### 3.2.1. Azure AD と Microsoft Intune の自動連携


Windows 10 Mobile を Azure AD に登録させると同時に、Microsoft Intune と自動で連携させるために、Azure AD 側に設定を実施します。

図	手順
	<p>1. <a href="https://manage.windowsazure.com/">https://manage.windowsazure.com/</a> にアクセスします。</p>
	<p>2. Office 365 の管理者アカウントを入力しパスワードを入力します。</p> <p>[サインイン] をクリックし Azure AD クラシックポータルにサインインします。</p>
	<p>3. 左ペインから [ACTIVE DIRECTORY] をクリックします。管理したいアカウントをクリックします。</p>
	<p>4. メニューから [構成] をクリックします。</p>

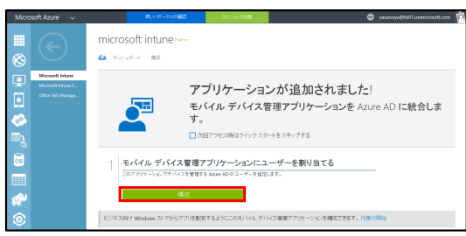
## Windows 10 Mobile 評価ガイド


- 

5. [デバイス] の項目の [ユーザーはデバイスを AZURE AD に参加させることができます] の設定が [すべて] になっていることを確認します。  
※[構成済み]の設定を使って、特定のユーザーグループにのみ、Azure AD への参加を許可することも可能です。
- 

6. [デバイス] の項目の [デバイスを参加させるには MULTI-FACTOR AUTH が必要] の設定が [いいえ] になっていることを確認します。  
※デバイス登録時に、MULTI-FACTOR AUTH を利用することも可能です。
- 

7. メニューから [アプリケーション] をクリックします。
- | 名前                          | 発行者                   |
|-----------------------------|-----------------------|
| Microsoft Intune            | Microsoft Corporation |
| Microsoft Intune Enrollment | Microsoft Corporation |
| Office 365 Management APIs  | Microsoft Corporation |

8. [Microsoft Intune] をクリックします。
- 

9. [モバイル デバイス管理アプリケーションにユーザーを割り当てる] から [構成] をクリックします。
- 

10. [これらのユーザーのデバイスの管理] の適用対象を [すべて] に変更します。  
※[グループ]を選択して、特定のユーザーグループを適用対象にすることも可能です。

### 3.3. ビジネス向け Windows ストア

ビジネス向け Windows ストアを利用するには管理者ポータルサイトに Azure AD の管理者アカウント（Office 365 の管理者アカウントと同様）でサインインする必要があります。ここでは、管理者ポータルサイトへのサインイン、Microsoft Intune の管理ツールの開設手順と、アプリの購入手順について説明します。

#### 3.3.1. サインアップ

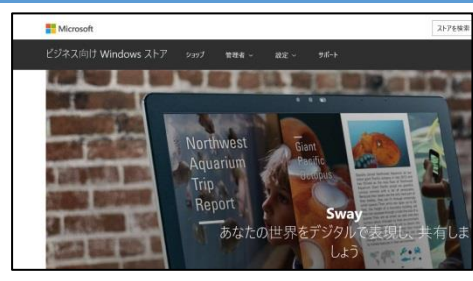
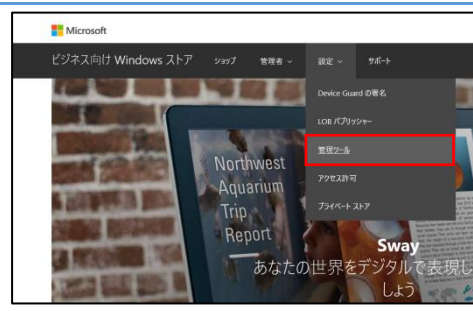

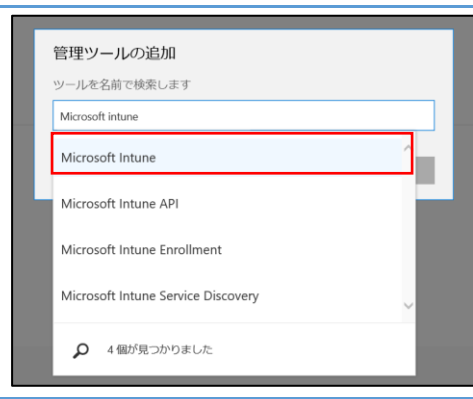
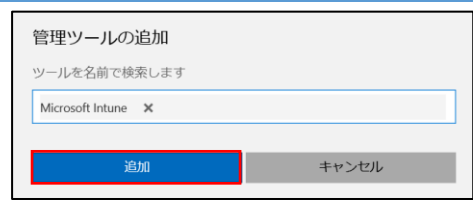
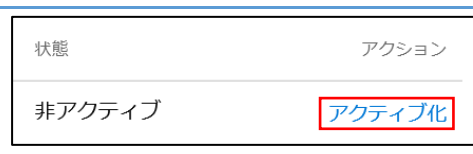
ビジネス向け Windows ストアを利用するために、ブラウザを使って管理者ポータルサイトにサインインする手順について説明します。

図	手順
	<p>1. <a href="https://www.microsoft.com/ja-jp/business-store/">https://www.microsoft.com/ja-jp/business-store/</a> にアクセスします。</p>
	<p>2. 下へスクロールし [新規登録] をクリックします。</p>
	<p>3. Azure AD の管理者アカウントを入力し [次へ] をクリックします。</p>
	<p>4. [サインイン] をクリックし Azure AD の管理者アカウントからビジネス向け Windows ストアの管理者ポータルサイトにサインインします。</p>



### 3.3.2. 管理ツールの設定

ビジネス向け Windows ストアと Microsoft Intune を連携して利用をするために、ビジネス向け Windows ストアに管理ツールの設定する手順について説明します。

図	手順
	<p>1. ビジネス向け Windows ストアにアクセスし、Azure AD の管理者アカウントでサインインします。</p>
	<p>2. [設定] &gt; [管理ツール] 順にクリックします。</p>
	<p>3. [管理ツール] から [管理ツールの追加] をクリックします。</p>
	<p>4. テキスト ボックスに [Microsoft Intune] と入力し、項目の [Microsoft Intune] をクリックします。</p>
	<p>5. [追加] をクリックし [ツール] に [Microsoft Intune] が追加されていることを確認します。</p>
	<p>6. [管理ツール] &gt; [ツール] &gt; [Microsoft Intune] から [アクティブ化] をクリックします。</p>

状態	アクション
<b>アクティブ</b>	非アクティブ化

7. [状態] が [非アクティブ] から [アクティブ] に変更されていることを確認します。

### 3.3.3. アプリの追加

アプリを Windows 10 Mobile に展開するために、ビジネス向け Windows ストアからアプリを購入する手順について説明します。

図	手順
	<p>1. ビジネス向け Windows ストアにアクセスし、Azure AD の管理者アカウントでサインインします。</p>
	<p>2. [ショップ] または [ストア検索] から追加したいアプリを探します。今回は、[Office Lens] を購入したいので「Office Lens」と検索します。</p>
	<p>3. 購入したいアプリをクリックします。</p>
	<p>4. [オンライン] が選択されていることを確認して [アプリをゲット] をクリックします。有料アプリの場合は [アプリをゲット] ボタンに金額が表示されます。有料アプリを購入するには支払方法を登録する必要があります。</p>

	<p>5. [管理者] &gt; [注文履歴] の順にクリックします。</p>
	<p>6. 購入したアプリが追加されていることを確認します。</p>

### 3.4. Microsoft Intune

Microsoft Intune には、モバイル デバイスを一元管理する機能があります。ここでは、CBB の設定やセキュリティ機能の設定、ビジネス向け Windows ストアと連動したアプリの配布設定について説明します。

#### 3.4.1. モバイル デバイス管理機能の設定

Microsoft Intune に対して、Microsoft Intune でモバイル デバイス管理をするための設定をする手順について説明します。

図	手順
	<p>1. <a href="https://manage.microsoft.com/MicrosoftIntune/">https://manage.microsoft.com/MicrosoftIntune/</a> にアクセスします。Microsoft Intune の管理者アカウント（既定では Azure AD の管理者アカウント）でサインインします。</p>
	<p>2. 左ペインから [管理者] &gt; [モバイル デバイス管理] の順にクリックします。</p>
	<p>3. [モバイル デバイス管理機能] 項目から [モバイル デバイス管理機能の設定] をクリックします</p>

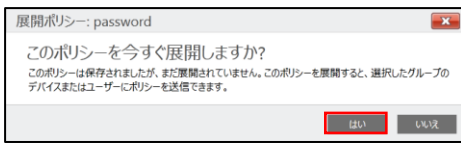
	<p>4. [権限が設定されていません。] から [Microsoft Intune に設定] になっていることを確認します。</p>
--	---

### 3.4.2. 全般構成の設定

全般構成のポリシーでは、Windows 10 Mobile のシステムやセキュリティの制御を簡単に行うことができます。ここでは、セキュリティ強化のために、Windows 10 Mobile デバイスのロック パスワードの最少文字数を設定する手順について説明します。

図	手順
	<p>1. Microsoft Intune 管理コンソールの左ペインから [ポリシー] をクリックします。</p>
	<p>2. [ポリシーの追加] をクリックします。</p>
	<p>3. [新しいポリシーの作成] ダイアログ ボックスを表示します。</p>
	<p>4. 左ペインから [Windows] &gt; [全般構成(Windows 10 Desktop および Mobile 以降)] の順に展開し [ポリシーを作成する] をクリックします。</p>

	<p>5. [ポリシーの作成] ページから [名前] を入力します。今回は例として、「password」と入力します。</p>
	<p>6. [ポリシーの作成] 左ペインから [セキュリティ] をクリックし [パスワード] の設定項目を表示します。</p>
	<p>7. [デバイスのロック解除にパスワードを必要とする が構成されていません] の項目からスイッチをクリックし、設定を有効化します。</p> <p>ドロップダウン リストで [はい] が選択されていることを確認します。</p>
	<p>8. [パスワードの最少文字数 が構成されていません] の項目からスイッチをクリックし、設定を有効化します。</p> <p>[パスワードの最少文字数] ドロップダウン リストから任意の文字数を選択してください。今回は、パスワードの最少文字数を 6 に設定します。</p>
	<p>9. 右下にある [ポリシーの保存] をクリックし、設定を保存します。</p>



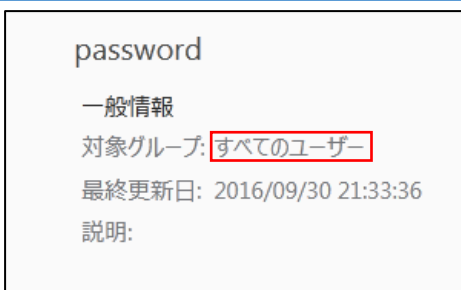
10. [展開ポリシー] ダイアログ ボックスが表示されたら [はい] をクリックします。



11. [展開の管理] ダイアログ ボックスが表示されます。ポリシーを適用するグループを選択し [追加] をクリックします。今回は例として、[すべてのユーザー] を追加します。



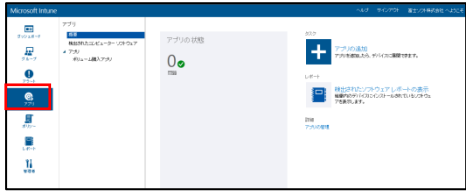


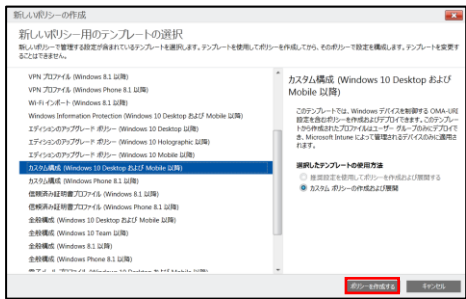
12. [選択したグループ] に追加したグループが表示されていることを確認し [OK] をクリックします。



13. [ポリシー] > [構成ポリシー] で展開したポリシーを選択し、下ペインの [対象グループ] が [すべてのユーザー] になっていることを確認します。

### 3.4.3. カスタム構成の設定

カスタム構成のポリシーでは、Windows 10 Mobile の様々な機能を OMA-URI を使って制御することができます。ここでは、CBB の適用期間を設定するために、カスタム構成のポリシーの作成、適用手順について説明します。

図	手順
	<p>1. Microsoft Intune 管理コンソールの左ペインから [ポリシー] をクリックします。</p>
	<p>2. Microsoft Intune 管理コンソールの左ペインから [ポリシー] &gt; [ポリシーの追加] の順にクリックします。</p>
	<p>3. [新しいポリシーの作成] ダイアログ ボックスを表示します。</p>
	<p>4. 左ペインから [Windows] &gt; [カスタム構成(Windows 10 Desktop および Mobile 以降)] の順に展開し [ポリシーを作成する] をクリックします。</p>

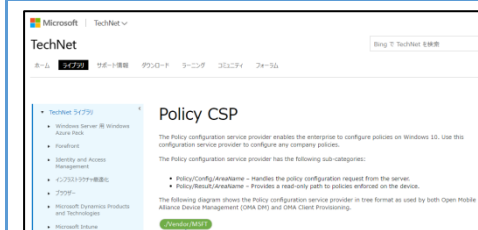
## Windows 10 Mobile 評価ガイド



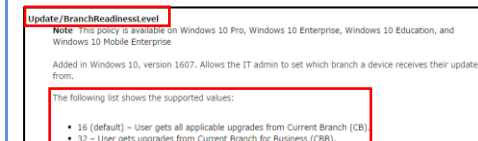
5. [名前] を入力し、[ポリシーの作成] 画面の [OMA-URI 設定] から [追加] をクリックします。今回は例として、[名前] に [CBB] と入力します。



6. [OMA-URI 設定の追加または編集] ダイアログ ボックスを表示します。



7. <https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn904962.aspx> にアクセスします。







8. 手順 [7] でアクセスした Web ページから [Update/BranchReadinessLevel] を表示し、設定できる値を確認します。


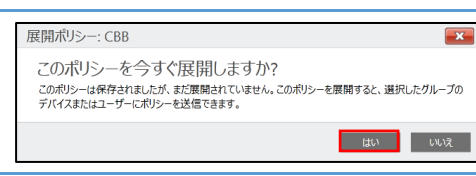

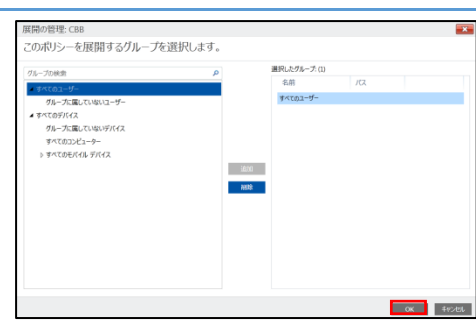


9. 手順 [6] で表示した [OMA-URI 設定の追加または編集] ダイアログ ボックスの [設定名] [データ型] [OMA-URI] [値] に手順 [8] で確認した内容を入力して [OK] をクリックします。今回は、CBB を適用する規則を追加したいので、[設定名] に「Update/BranchReadinessLevel」を入力、[データ型] を [整数] に変更、[OMA-URI] に「./Vendor/MSFT/Policy/Config/Update/BranchReadinessLevel」を入力し、[値] に「32」を入力します。



## Windows 10 Mobile 評価ガイド

	<p>10. OMA-URI が追加されていることを確認し再度 [追加] をクリックします。</p>
	<p>11. [OMA-URI 設定の追加または編集] ダイアログ ボックスを表示します。</p>
	<p>12. <a href="https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn904962.aspx">https://technet.microsoft.com/ja-jp/library/dn904962.aspx</a> にアクセスします。</p>
	<p>13. 手順 [12] でアクセスした Web ページから [Update/DeferQualityUpdatesPeriodInDays] を表示し 設定できる値を確認します。</p>
	<p>14. 手順 [11] で表示した [OMA-URI 設定の追加または編集] ダイアログ ボックスの [設定名] [データ型] [OMA-URI] [値] に手順 [13] で確認した内容を入力して [OK] をクリックします。[OK] をクリックします。今回は、CBB の適用を 30 日間延期させる規則を追加したいので、[設定名] に「Update/DeferQualityUpdatesPeriodInDays」を入力、[データ型] を [整数] に変更、[OMA-URI] に「../Vendor/MSFT/Policy/Config/Update/DeferQualityUpdatesPeriodInDays」を入力、[値] に「30」を入力します。</p>
	<p>15. OMA-URI 設定が追加されていることを確認します。</p>

- |   |   |
|---|---|
|            | <p>16. 右下にある [ポリシーの保存] をクリックし、設定を保存します。</p>   |
|            | <p>17. [展開ポリシー] ダイアログ ボックスが表示されたら [はい] をクリックします。</p>  |
|            | <p>18. [展開の管理] ダイアログ ボックスが表示されます。ポリシーを適用するグループを選択し [追加] をクリックします。今回は例として、[すべてのユーザー] を追加します。</p> |
|           | <p>19. [選択したグループ] に追加したグループが表示されていることを確認し [OK] をクリックします。</p>                                    |
| <p>CBB</p> <p>一般情報</p> <p>対象グループ: すべてのユーザー</p> <p>最終更新日: 2016/09/29 19:36:38</p> <p>説明:</p> | <p>20. [ポリシー] &gt; [構成ポリシー] で展開したポリシーを選択し、下ペインの [対象グループ] が [すべてのユーザー] になっていることを確認します。</p>       |

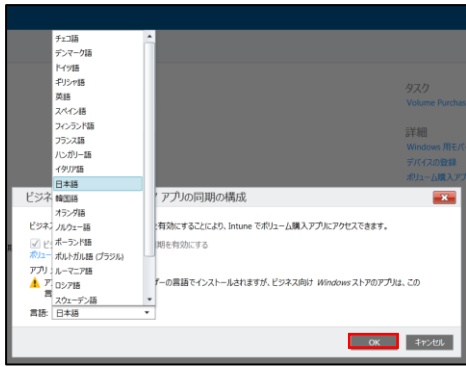
### 3.4.4. ビジネス向け Windows ストアとの同期設定

Microsoft Intune からアプリを一元管理するために、ビジネス向け Windows ストアで購入したアプリを Microsoft Intune と同期する手順について説明します。

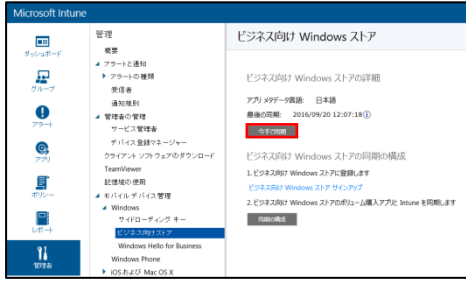
手順	
	<p>1. Microsoft Intune 管理コンソールから[管理者] を選択します。</p>
	<p>2. [モバイル デバイス管理] &gt; [Windows] の順に展開し [ビジネス向けストア] を選択します。</p>
	<p>3. [ビジネス向け Windows ストアにサインアップ] をクリックします。Azure AD の管理者アカウントを入力し [次へ] をクリックします。</p>
	<p>4. [サインイン] をクリックし [ビジネス向け Windows ストア] の管理者ポータルサイトにサインインします。</p>
	<p>5. [ビジネス向けストア] から [同期の構成] をクリックし [ビジネス向け Windows ストア アプリの同期の構成] ダイアログ ボックス を開きます。</p>
	<p>6. [ビジネス向け Windows ストアの同期を有効にする] を選択します。</p>

## Windows 10 Mobile 評価ガイド

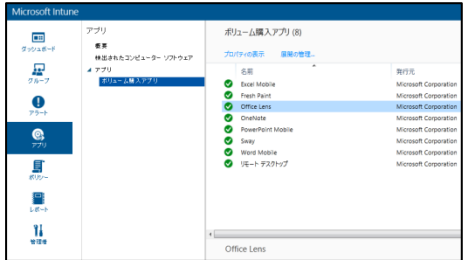
7. [ビジネス向け Windows ストア アプリの同期の構成] ダイアログ ボックスの [言語] ドロップダウン リストから [日本語] を選択し [OK] をクリックします。



8. [ビジネス向け Windows ストア] から [今すぐ同期] をクリックし、ストアから購入したアプリと Microsoft Intune を同期します。



9. [アプリ] > [アプリ] > [ボリューム購入アプリ] の順に展開し、使用可能なアプリを表示します。購入したアプリが正しくインポートされたことを確認します。

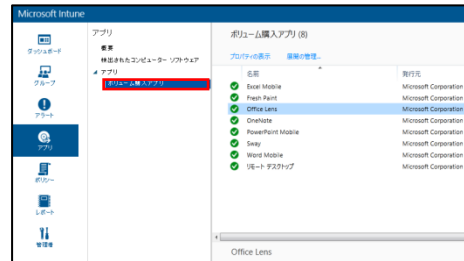


名前	発行元
OneNote	Microsoft Corporation
OneDrive	Microsoft Corporation
PowerPoint Mobile	Microsoft Corporation
Sway	Microsoft Corporation
Word Mobile	Microsoft Corporation
Word - タブレット	Microsoft Corporation

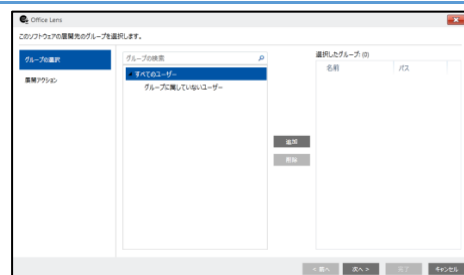
3.4.5. アプリの配布設定

Microsoft Intune から Windows 10 Mobile にアプリを展開するための設定手順について説明します。

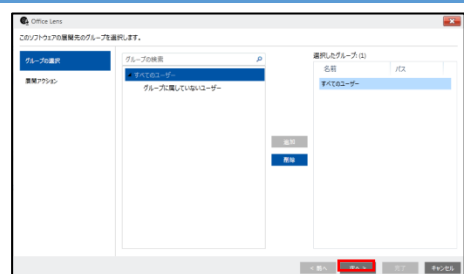
手順



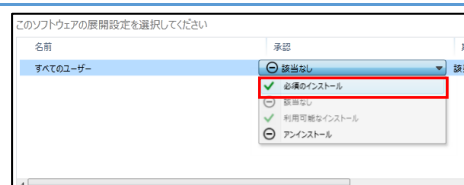
1. Microsoft Intune 管理コンソールから [アプリ] > [アプリ] > [ボリューム購入アプリ] の順にクリックし、管理するアプリの一覧を表示します。



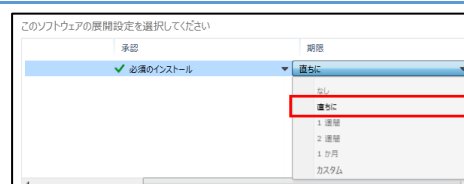
2. 展開するアプリを選択し [展開の管理] をクリックします。今回は例として、[Office Lens] を選択します。[Office Lens] ダイアログ ボックスが表示されます。



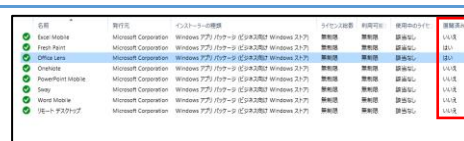
3. [Office Lens] ダイアログ ボックスの [グループの選択] で、展開を適用したいデバイス グループを選択し [次へ] をクリックします。



4. [展開アクション] ページの項目から [承認] をクリックし、承認の設定を行います。今回は、[Office Lens] をユーザー デバイスに必ずインストールしたいので [必須のインストール] を選択します。



5. [展開アクション] ページの [期限] をクリックし、アプリをいつ展開するかを選択します。今回はすぐに展開したいので、[直ちに] を選択します。



6. [完了] をクリックし、対象アプリの [展開済み] の列項目が [いいえ] から [はい] に変更されていることを確認します。

### 3.5. プロビジョニング パッケージ

プロビジョニング パッケージは、Windows ICD を用いることで作成することが可能です。ここでは、Windows ICD によるプロジェクトの作成から、項目の設定、パッケージの出力までの手順を説明します。説明に用いるパッケージでは、デバイス名の設定、Wi-Fi 設定、エディションのアップグレードを行います。

Windows ICD は、Windows 10 用の Windows アセスメント & デプロイメント キット (Windows ADK) に含まれています。Windows 10 用の Windows ADK は、マイクロソフト ハードウェア デベロッパー センターからダウンロード可能です。2016 年 9 月現在の最新バージョンは、Windows ADK for Windows 10 Version 1607 です。

- Windows ADK のダウンロード

<https://developer.microsoft.com/ja-jp/windows/hardware/windows-assessment-deployment-kit>

Windows 10 Mobile のエディション アップグレードには、ライセンスキーを含む XML ファイルが必要となります。事前にボリューム ライセンス サービス センターより、必要なファイルをダウンロードしておいてください。

- ボリューム ライセンス サービス センター

<https://www.microsoft.com/Licensing/servicecenter/default.aspx>

#### 3.5.1. プロジェクトの作成

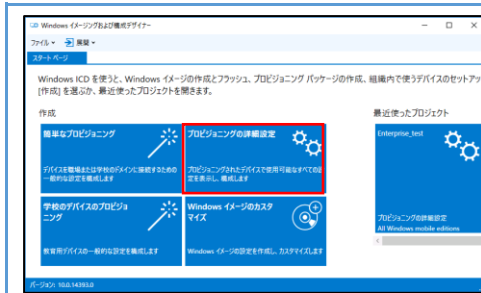
プロビジョニング パッケージを作成するため、Windows ICD においてプロジェクトを作成する手順について説明します。

☒ 手順

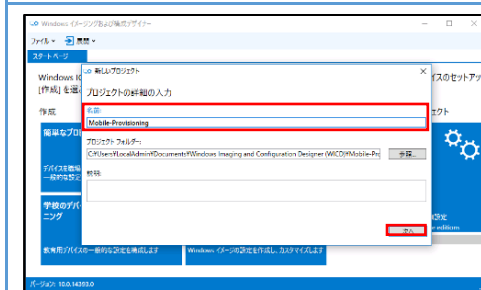


1. Windows ICD を起動します。

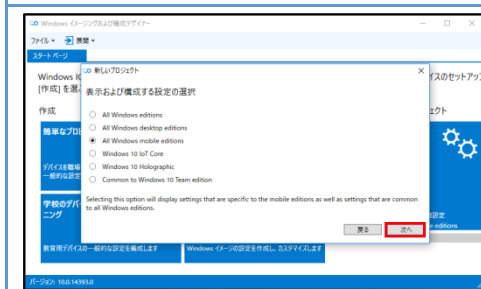
## Windows 10 Mobile 評価ガイド



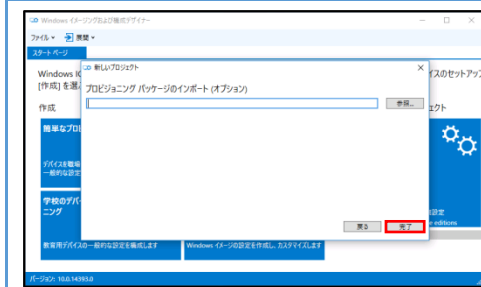
2. [プロビジョニングの詳細設定] をクリックします。



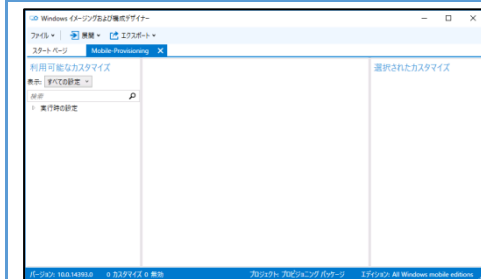
3. プロジェクト名を入力して [次へ] をクリックします。デフォルトでは既定の場所にプロジェクトが作成されます。



4. パッケージの適用対象によって、設定可能な項目が変化します。今回は、[All Windows mobile editions] を選択し、[次へ] をクリックします。



5. 既存のプロビジョニング パッケージの設定情報をインポートできます。今回は使用しないので、[完了] をクリックします。



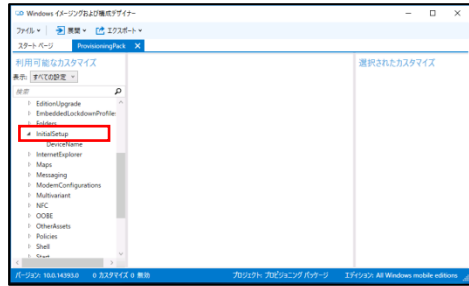
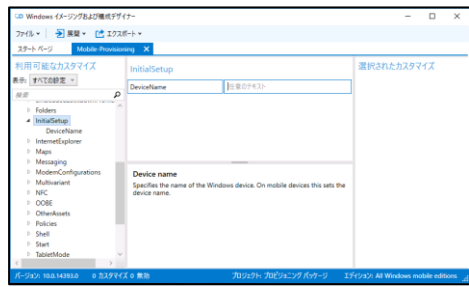

6. Windows ICD の作成したプロジェクト画面が表示されます。実行時の設定をクリックすると設定可能な項目が展開されます。

### 3.5.2. プロビジョニング項目の設定

プロビジョニング パッケージの適用先のデバイスで適用したい項目の設定方法について説明します。ここでは、デバイス名と Wi-Fi の設定、Windows 10 Mobile を Windows 10 Mobile Enterprise エディションにアップグレードする設定について説明します。

#### (1) デバイス名の設定

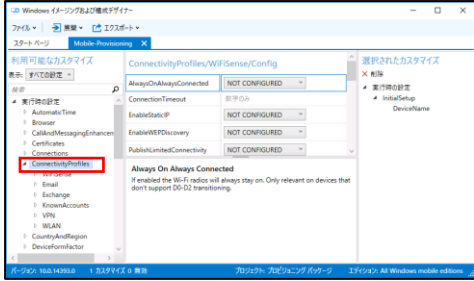
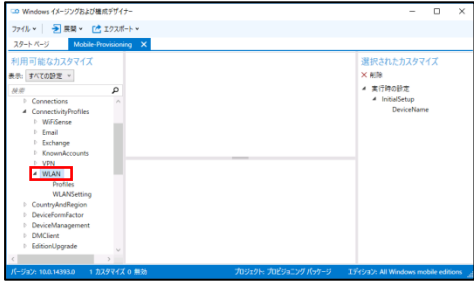
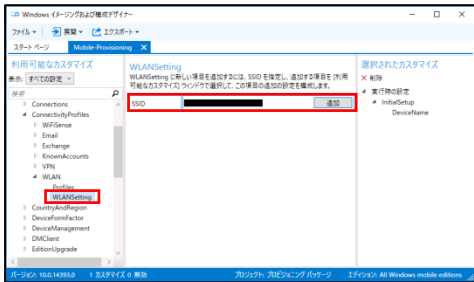
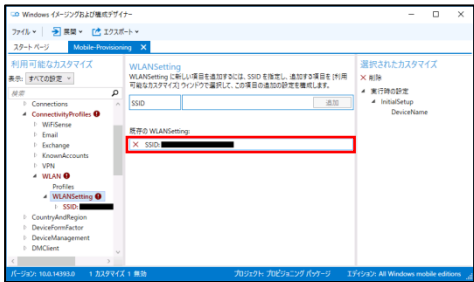
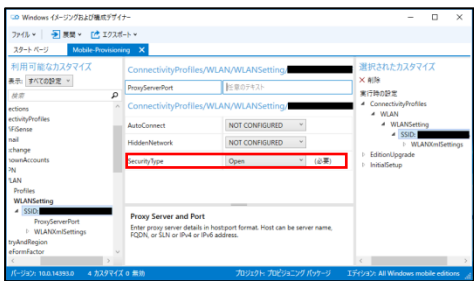
適用先デバイスのデバイス名を設定する手順について説明します。

図	手順
	<p>1. 実行時の設定の中から [InitialSetup] をクリックします。</p>
	<p>2. デバイス名の設定画面が中央に表示されます。</p>
	<p>3. DeviceName のテキスト フィールドに設定したい名前を入力します。「%RANDOM:(桁数)%」を用いると、ランダムな数値を設定できます。 例) 「Test-%RANDOM:6%」6 桁のランダムな数値</p>



(2) Wi-Fi の設定

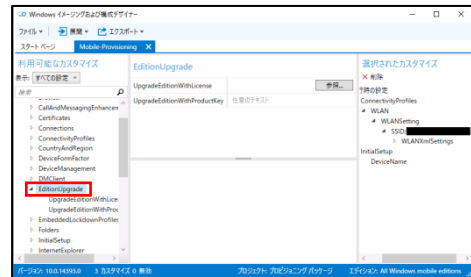
適用先デバイスの Wi-Fi の設定手順について説明します。

図	手順
	<p>1. 実行時の設定の中から [ConnectivityProfile] をクリックします。</p>
	<p>2. [WLAN] をクリックします。</p>
	<p>3. [WLANSetting] をクリックします。 中央の画面に SSID の入力用テキストボックスが表示されますので SSID を入力し、[追加] をクリックします。</p>
	<p>4. 作成されたエントリをクリックして編集ページを開きます。</p>
	<p>5. 今回は、SecurityType を [Open] にします。</p>

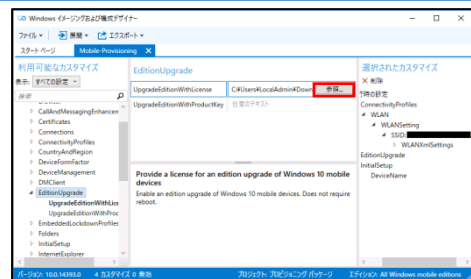
(3) Enterprise エディションへのアップグレード

適用先デバイスを Windows 10 Mobile Enterprise エディションにアップグレードする設定を行う手順について説明します。

手順



1. 実行時の設定の中から [EditionUpgrade] をクリックします。アップグレードの設定画面が中央に表示されます。

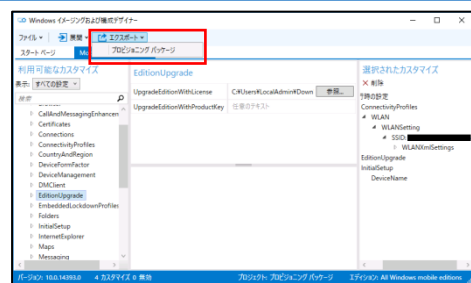


2. [UpgradeEditionWithLicense] の [参照] ボタンをクリックし、ライセンスキーを含んだファイル (XML ファイル) を選択します。

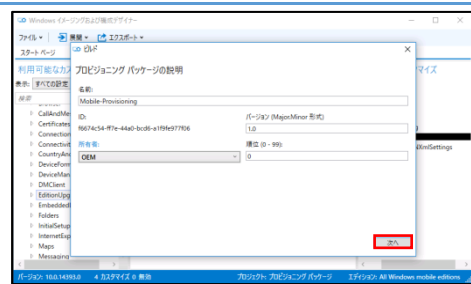
3.5.3. パッケージの出力

適用項目の設定を行ったプロビジョニング パッケージを出力する手順について説明します。

手順

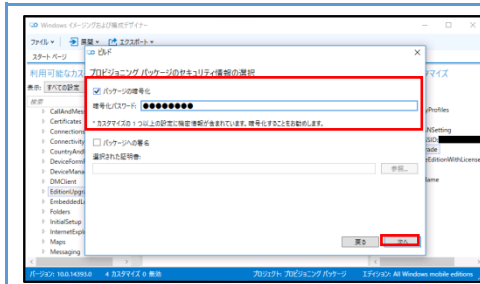


1. メニューの [エクスポート] を選択し、[プロビジョニング パッケージ] をクリックします。



2. パッケージの名前や優先度の入力が行えます。デフォルト値でよければそのまま [次へ] をクリックします。

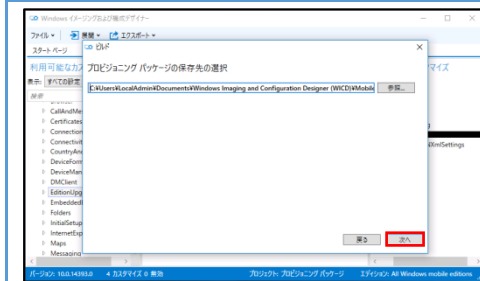
## Windows 10 Mobile 評価ガイド



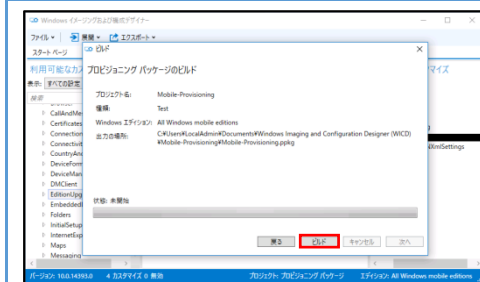
3. パッケージにパスワードを設定することができます。パスワードを入力し、[次へ] をクリックします。

### Note

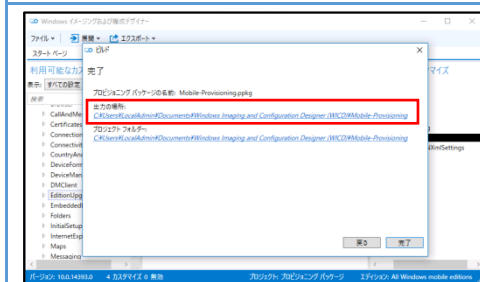
Wi-Fi 設定やライセンスなどを扱うパッケージでは、パスワードを設定することを推奨します。



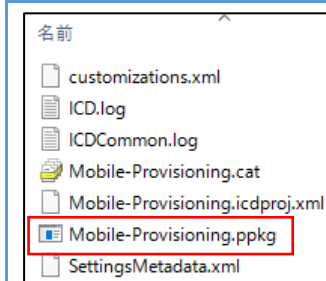
4. プロビジョニング パッケージの保存先を設定します。デフォルトではプロジェクトの場所が選択されています。保存先を設定したら [次へ] をクリックします。



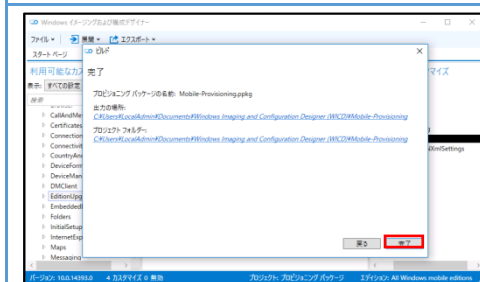
5. ビルド画面が表示されましたら、[ビルド] をクリックしビルドを開始します。



6. ビルドが完了するとパッケージの保存先などが表示されます。表示されているパスをクリックすると保存先がエクスプローラーで開かれます。



7. プロビジョニング パッケージ (.ppkg) が指定の場所に出力されていることを確認します。確認ができましたらエクスプローラーは閉じて構いません。



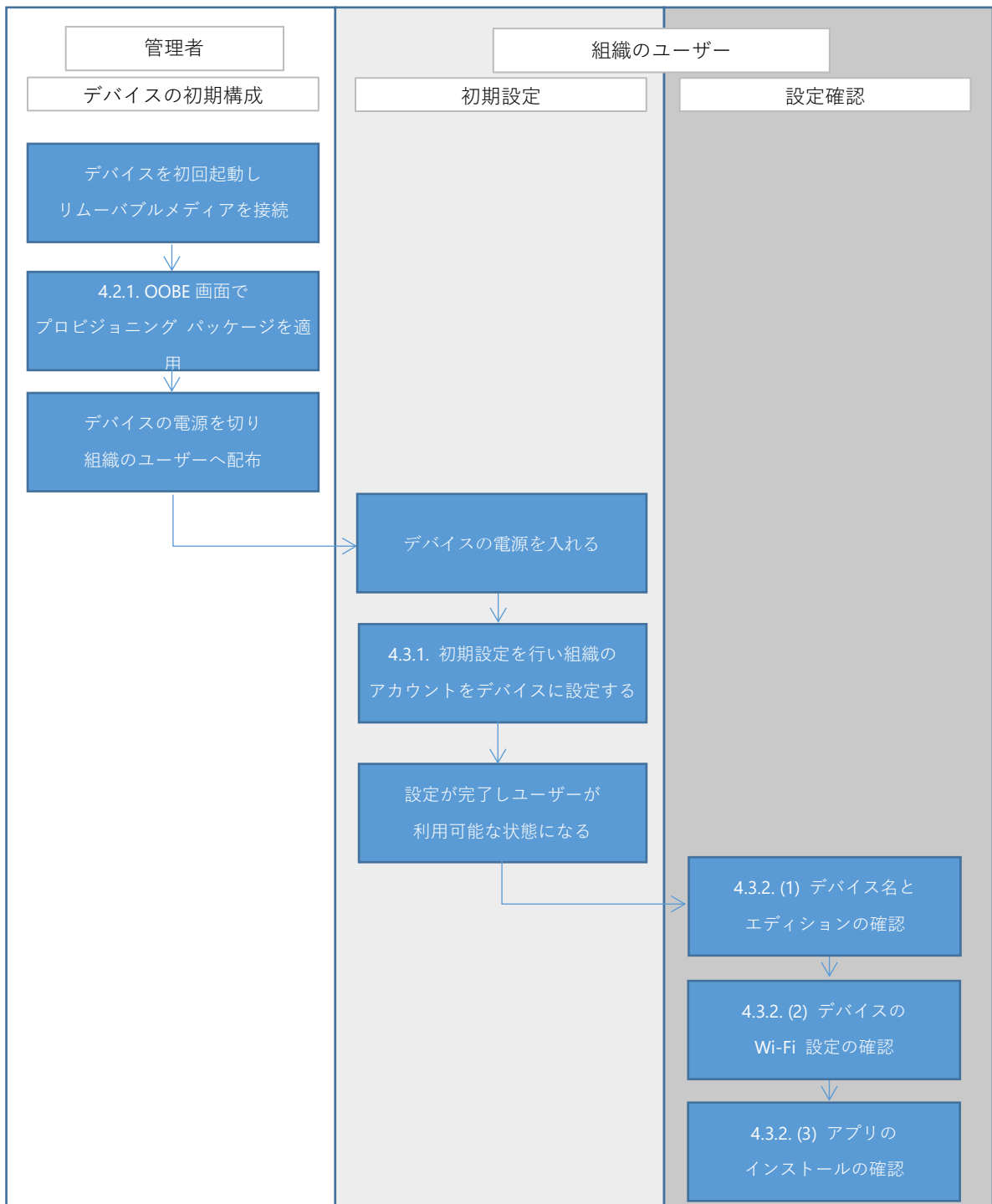
8. [完了] をクリックするとビルドのウィンドウが閉じます。

## 4. 展開編

管理インフラの準備が完了したら次は展開となります。展開は管理者側で各端末に設定可能な部分とユーザー側で実施する手順があります。

### 4.1. Windows 10 Mobile の組織内展開フロー

Windows 10 Mobile を組織内で展開する場合のフローを下図に示します。



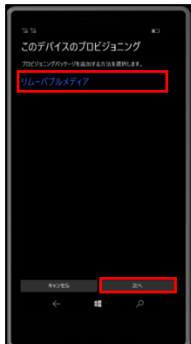


## 4.2. 管理者 (デバイス準備)

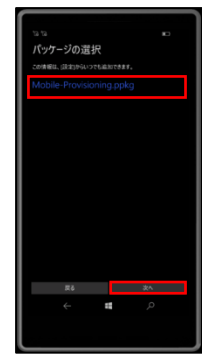
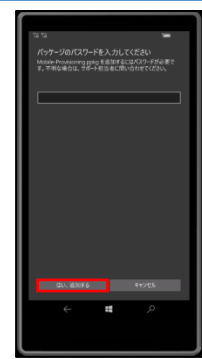

組織が管理するデバイスを配布するには、管理者側で事前にセットアップを行える部分があります。ここでは、デバイスの初回起動時に 管理者側でプロビジョニング パッケージを適用する方法について説明します。

### 4.2.1. プロビジョニング パッケージの適用

USB などのリムーバブルメディアに格納されたプロビジョニング パッケージをデバイスに適用する手順について説明します。

図	手順
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Windows 10 Mobile を初回起動すると、言語設定の画面が表示されます。</li> </ol>
	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. Windows 10 Mobile と リムーバブルメディア (USB メモリなど) を接続した状態で、[Windows キー] を 5 回素早くタップします。</li> </ol> <div data-bbox="671 1272 1390 1489" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>Note</b> 初期状態から言語や国の設定を変更すると再起動を求められることがあります。再起動を求められたら、表示に従って再起動を行ってください。</p> </div>
	<ol style="list-style-type: none"> <li>3. デバイスのプロビジョニングを行う画面が表示されます。プロビジョニング パッケージの追加方法を問われますので、[リムーバブル メディア] を選択し、[次へ] をタップします。</li> </ol>

## Windows 10 Mobile 評価ガイド


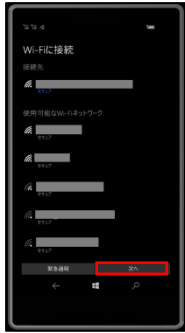
	<p>4. 使用可能なプロビジョニング パッケージが一覧表示されますので、適用したいパッケージを選択します。パッケージを選択したら、[次へ] をタップします。</p>
	<p>5. パッケージにパスワードを設定している場合は、パスワードの入力を求める画面が表示されます。パスワードの入力を求められます。パスワードを入力し、[はい、追加する] をタップします。パスワードが設定されていない場合は、この画面は表示されません。</p>
	<p>6. パッケージによる変更概要と、パッケージを信頼するかを問われますので、[はい、信頼する] をタップします。</p>
	<p>7. 言語設定の画面に戻ってきますので、電源ボタンを長押しする方法で、そのまま電源を切ります。これで、ユーザーへ配布する準備は完了です。</p>

### 4.3. ユーザー



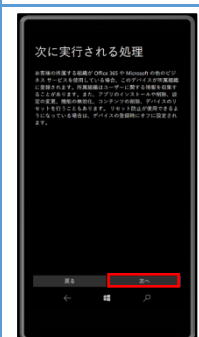


管理者が事前にセットアップしたデバイスは、ユーザーに配布されます。ここでは、デバイスを受け取ったユーザーが行う初期設定と、管理者の設定が正常に反映されていることを確認する方法について説明します。

#### 4.3.1. ユーザーの初期設定

デバイスを受け取った組織のユーザーが個人の Azure AD アカウント (Office 365 アカウント) を使って行う初期設定の手順について説明します。

図	手順
	<p>1. Windows 10 Mobile を起動すると、ライセンス条項が表示されますので [同意する] をタップします。</p>
	<p>2. 日付と時刻を設定し、[次へ] をタップします。</p>
	<p>3. Wi-Fi 設定の画面が表示されます。プロビジョニングパッケージによって既に Wi-Fi 設定が行われているので、接続状態になっているのがわかります。表示された接続先でよければ、[次へ] をタップします。</p>

## Windows 10 Mobile 評価ガイド

	<p>4. 情報送信やオープン ホットスポットへの接続設定を行います。詳細なカスタマイズを行わない場合には、[推奨] をタップします。</p>	<p><b>Note</b> 詳細なカスタマイズを行うには、[カスタマイズ] をタップします。設定のための画面に移動しますので、各種設定を行うことが可能です。</p>
	<p>5. デバイスの所有者について問われます。組織の管理下にあるデバイスの場合は、[職場用に設定します] をタップします。</p>	
	<p>6. 以降の設定に関する情報が表示されます。[次へ] をタップして設定を続行します。</p>	
	<p>7. メールアドレスとパスワードの入力を求められます。組織のアドレスとパスワードに各個人の Azure AD アカウント（Office 365 アカウント）を入力したら、[サインイン] をタップします。</p>	
	<p>8. PIN のセットアップに進むページが表示されます。セットアップを続行するために [PIN のセットアップ] をタップします。</p>	



	<p>9. アカウント保護への協力を求めるページが表示されますので、[次へ] をタップします。</p>
	<p>10. ID の確認を行うページが表示されます。ID の確認方法を選択するために、[認証方法を選択する] をタップしてメニューを表示します。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>Note</b></p> <p>ID の確認を初めて行う場合のみ、この確認方法の設定画面が表示されます。以前に確認方法を設定している場合は、その確認方法で確認が行われます。テキストメッセージを設定している場合は手順 15 へ飛びます。</p> </div>	
	<p>11. 選択可能な認証方法は、「電話」「テキストメッセージ」「モバイルアプリ」です。今回は例として、SMS を用いた認証を行うため [テキストメッセージ] をタップします。</p>
	<p>12. テキストメッセージを送信するための電話番号を求められます。国際番号 [日本 (+81)] を選択し、電話番号を入力して [次へ] をタップします。</p>
	<p>13. コードの入力画面が表示されます。指定した番号に届いたコードを入力し、[次へ] をタップします。</p>



14. PIN のセットアップが表示されます。テキストボックスに任意の値を入力し、[OK] をタップします。



15. Cortana のセットアップが表示されます。必要に応じてセットアップを行ってください。ここでは、[今は実行しない] をタップしてスキップします。



16. 一部の設定や、アプリのインストールなどが行われることがあります。全ての設定が終了すると完了ページが表示されます。[完了] をタップしてセットアップを完了します。



17. デスクトップが表示され、使用可能な状態となります。

**Note**

開始直後は、プロビジョニング パッケージで指定されたアプリのインストールや、アプリの更新のダウンロードといった動作が行われます。

#### 4.3.2. デバイスの設定状態の確認

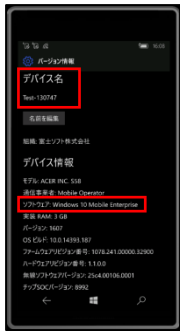
デバイスを利用可能になったユーザーが、プロビジョニング パッケージによる設定が正常に行われていることを確認する方法について説明します。今回確認するのは、デバイス名、Windows 10 Mobile のエディション、Wi-Fi 設定、指定したアプリのインストールの 4 つです。デバイス名とエディションについては、同様の方法で確認可能です。

##### (1) デバイス名およびエディションの確認

デバイスのデバイス名が指定したとおりに設定されていることと、Windows 10 Mobile Enterprise エディションにアップグレードされていることを確認する手順について説明します。

図	手順
	<p>1. デスクトップ画面の [設定] をタップし設定アプリを起動します。</p>
	<p>2. 設定アプリの中の [システム] をタップします。</p>
	<p>3. システム内の [バージョン情報] をタップします。</p>

## Windows 10 Mobile 評価ガイド

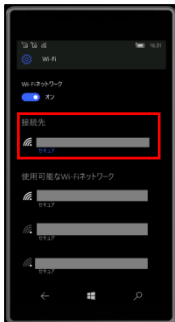


4. デバイス名が指定した「Test-(6桁の数値)」になっていることが確認できます。また、詳細な情報が表示されていない場合は、[詳細情報] をタップすることで表示させることが可能です。ソフトウェアを確認すると、「Windows 10 Mobile Enterprise」エディションであることが確認できます。

### (2) Wi-Fi 設定の確認

Wi-Fi の接続設定を確認する手順について説明します。



図	手順
	1. デスクトップ画面から [設定] をタップし、設定アプリを起動します。
	2. 設定の [ネットワークとワイヤレス] をタップします。
	3. ネットワークとワイヤレスの [Wi-Fi] をタップします。



4. 現在使用可能なネットワークが表示されます。設定時に変更していなければ、プロビジョニング パッケージで設定したネットワークに接続しています。

### (3) アプリのインストールの確認

指定したアプリがインストールされているかどうかを確認する手順について説明します。

手順	
	1. 通常、デスクトップ画面で右から左へスワイプすると全てのアプリ一覧を表示することができます。
	2. 全てのアプリ一覧から、MDM で設定しておいたアプリがインストールされていることが確認できます。

**Note**  
開始直後はアプリのダウンロードもしくはインストール中の可能性があります。インストールが完了しない場合は、更新を実行してください。

## 5. 運用編


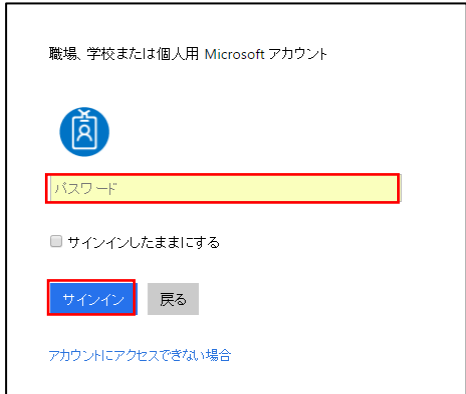
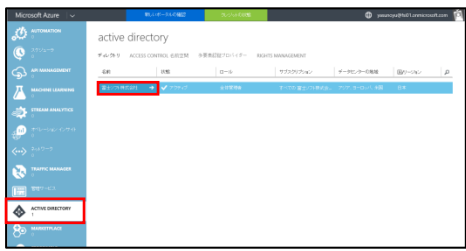
運用開始後は、IT 部門側での状態確認になります。各ツールでの簡単な確認方法を紹介します。

### 5.1. Azure AD

ユーザーがデバイスの初期設定を実施した後に、デバイス が Azure AD に登録されていることを管理者側で確認することができます。ここでは、Azure ポータルから、Azure AD にデバイスが登録されていることを確認する方法について説明します。

#### 5.1.1. 登録の確認

セットアップしたデバイスがユーザーと紐づいて、Azure AD に登録されていることを確認するための手順について説明します。

図	手順
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. <a href="https://manage.windowsazure.com/">https://manage.windowsazure.com/</a> にアクセスします。</li> </ol>
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Azure AD の管理者アカウントを選択しパスワードを入力します。  [サインイン] をクリックし Azure AD クラシックポータルにサインインします。</li> </ol>
	<ol style="list-style-type: none"> <li>2. 左側のペインから [ACTIVE DIRECTORY] をクリックします。確認したいアカウントをクリックします。</li> </ol>

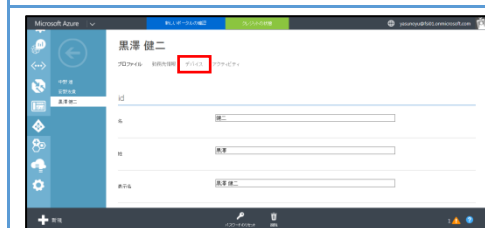
## Windows 10 Mobile 評価ガイド



3. メニューから [ユーザー] をクリックします。



4. [表示名] 列項目からに確認したいユーザー名をクリックします。



5. メニューから [デバイス] をクリックします。



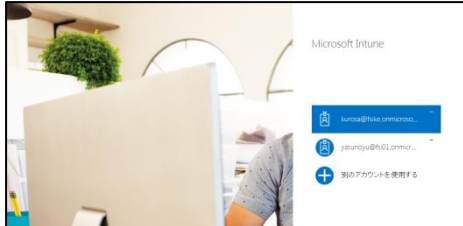
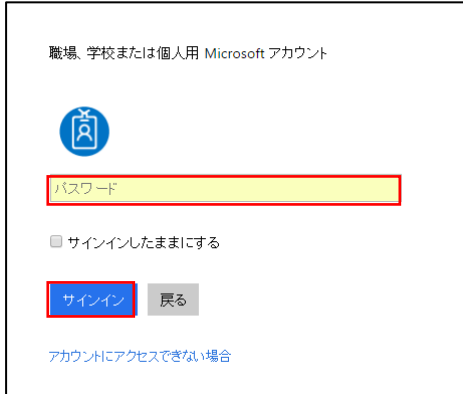
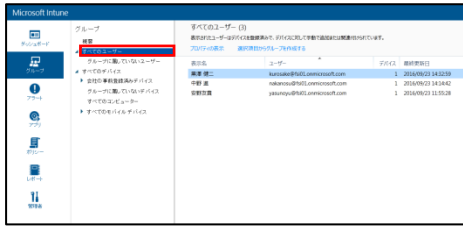
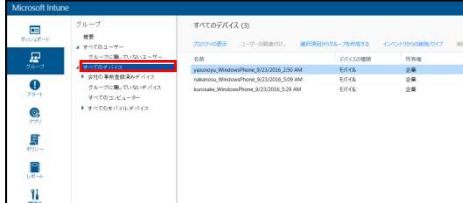
6. セットアップしたデバイスが登録されていることを確認します。

## 5.2. Microsoft Intune

ユーザーがデバイスの初期設定を実施した後に、デバイスが Microsoft Intune に登録されていることとアプリがデバイスにインストールされていることを管理者側で確認することができます。ここでは、Microsoft Intune 管理コンソールから事前に管理者が設定した項目がデバイスに反映されていることを確認する方法について説明します。

### 5.2.1. 登録の確認

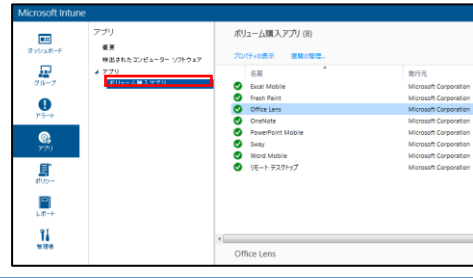


デバイスが、Microsoft Intune に登録されていることを確認するための手順について説明します。

図	手順
	<p>1. <a href="https://manage.microsoft.com/MicrosoftIntune/">https://manage.microsoft.com/MicrosoftIntune/</a> にアクセスします。</p>
	<p>2. Microsoft Intune の管理者アカウントを入力しパスワードを入力します。</p> <p>[サインイン] をクリックし Microsoft Intune ポータルにサインインします。</p>
	<p>3. 左ペインから [グループ] &gt; [すべてのユーザー] の順にクリックし、登録したユーザーが追加されていることを確認します。</p>
	<p>4. Microsoft Intune 管理コンソールから [グループ] &gt; [すべてのデバイス] の順にクリックし、登録したデバイスが追加されていることを確認します。</p>



## 5.2.2. アップデートの確認

セットアップしたデバイスに、Microsoft Intune から登録したアプリが追加されていることを確認するための手順です。

図	手順
	<p>1. Microsoft Intune 管理コンソールから [アプリ] &gt; [アプリ] &gt; [ボリューム購入アプリ] の順にクリックし、管理するアプリの一覧を表示します。</p>
	<p>2. 確認するアプリを選択し [プロパティの表示] をクリックします。今回は例として、[Office Lens] を選択します。</p>
	<p>3. メニューから [デバイス] をクリックし、アプリが正常にインストールされていることを確認します。</p>

### 5.3. ビジネス向け Windows ストア

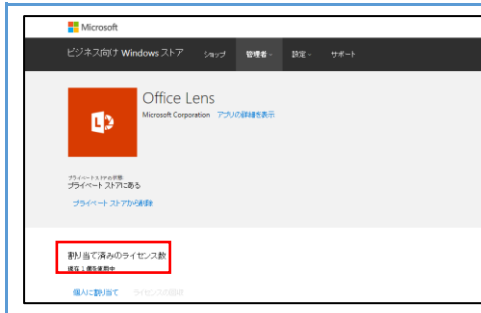
管理者はビジネス向け Windows ストアで管理しているアプリのライセンス数を確認することができます。ここでは、ビジネス向け Windows ストアからアプリのライセンス数を確認する手順について説明します。

#### 5.3.1. ライセンスの確認

アプリのライセンスが使用されていることを確認する手順について説明します。

図	手順
	<p>1. <a href="https://www.microsoft.com/ja-jp/business-store/">https://www.microsoft.com/ja-jp/business-store/</a> にアクセスし [サインインしてください] をクリックします。</p>
	<p>2. Azure AD の管理者アカウントを入力し、パスワードを入力します。</p> <p>[サインイン] をクリックし Azure AD 管理者アカウントからビジネス向け Windows ストアの管理者ポータルサイトにサインインします。</p>
	<p>3. ビジネス向け Windows ストアのメニューから [管理者] &gt; [在庫] の順にクリックします。</p>
	<p>4. 確認したいアプリの [操作] 項目をクリックし [ライセンスの詳細を表示] をクリックします。</p>

## Windows 10 Mobile 評価ガイド



5. [割り当て済みのライセンス数] から使用されているライセンス数を確認します。

## 6. おわりに

---

本書では、Windows 10 Mobile を組織利用するための手順について説明しました。本書内で説明したように、Windows 10 Mobile は、一貫したエクスペリエンス、セキュリティ、モバイル デバイス管理といった組織での利用に適した特徴を有しています。そのため、Windows 10 Mobile は組織で使用するモバイル デバイスとして普及されていくことが予想されます。

これから組織でモバイル デバイスの導入を検討されている管理者の方には、組織での管理や強固なセキュリティを有する Windows 10 Mobile を推奨します。

本書が、組織内のモバイル デバイスの導入をご検討されている管理者の皆様の一助になりましたら幸いです。

## 7. 用語集

本書内の用語集になります。

用語	解説
Trusted Platform Module (TPM)	暗号キーなどのセキュリティ機能を提供するマイクロチップ。
Windows Information Protection	組織の管理するデータが外部に漏えいするのを防ぐための機能。ポリシーによって、アプリ間のデータのコピー & ペーストといった操作を制限することが可能。
ドッキングステーション	電源入力や USB コネクタ、LAN コネクタ、外部ディスプレイ出力端子などを備えた、デバイス機能の拡張ユニット。
Insider Preview Branch	Windows Insider Program に参加するユーザーに対して、 <b>Current Branch</b> 以前に新機能の提供を行うサービシングモデルです。早期テストを目的とした <b>Branch</b> で、正式版の提供前に新機能を試し、マイクロソフトに機能の評価や問題のフィードバックが行える。
サービシングモデル	Windows 10 より提供される <b>CB</b> 、 <b>CBB</b> などの新しい機能更新モデル。
VPN	インターネットに接続されている利用者の中に、仮想的な通信トンネルを構成したプライベートなネットワークのこと。
Wi-Fi	Wi-Fi Alliance によって認定された、無線 LAN の規格。
OneDrive	マイクロソフトが運営するオンライン ストレージサービス。
OMA-URI	Object Management Architecture - Uniform Resource Identifier の略。ポリシーを定義しセキュリティポリシーとして展開。
Out-Of-Box Experience (OOBE) 画面	デバイスを購入して最初に電源を入れたときに表示されるセットアップ前の画面。